



梅島小だより



本は心の栄養

副校長 鯉沼 哲

木々の葉が少しずつ色づき始め、秋晴れの心地のよい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。あとわずか前期の授業が終了します。子どもたちが、この半年の学校生活の中で学び身につけた学習の成果や課題、そして、様々な場面で活躍した様子を各担任より、通知表を通してお知らせいたします。ぜひ、ご家庭でお子様と一緒にご覧になっていただき、後期の学習に向けての目標を立てるための資料の一つとしていただきたいと思います。

さて、秋の『コスモス読書週間』が後期のスタート 10月11日(火)より始まります。学校では、朝のパワー読書の時間、図書委員会による集会や読み聞かせ活動、授業での読書の時間等を通して本に触れる時間を設けています。また、図書ボランティアの皆様による読み聞かせも定期的に実施していただき、多くの子どもたちが楽しみにしています。「本は心の栄養」という言葉を聞いたことがありますか、ご存知でしょうか。

読書をすることによって身につく力は沢山あります。『想像力が育つ』映像と違い、人物や情景を想像し、頭の中で描いた世界を楽しむことができます。『集中力が育つ』文字に浸り、本の中に入ることにより集中力が身につきます。『知識が身につく』今まで、知らなかったことを知ることができます。『思考力が育つ』文章の筋道を読んでいくことにより、論理的な思考を体験できます。『語彙力がつく』本の中には「言葉」という名の宝がたくさん詰まっています。読むことによって少しずつその宝を拾い集めることができます。『人間形成に役立つ』物語や詩を読むことで、人の気持ちを考えたり、自然や事物への感性を磨いたり、情緒豊かな心を身につけることができます。これらの力を身につけることができるのが読書であり、本に触れることが私たちの心を育てる栄養になるのではないのでしょうか。

私は、本を読むのが苦手な子どもでした。自ら興味をもって読むことができた最初の本は、母親が買ってくれた「シートン動物記」という本でした。はじめは、机の上の本棚の飾り物でした。ある日、最初の一話『オオカミ王ロボ』という作品を母が読みきかせをしてくれたのです。オオカミと人間の戦いのシーンが話の中から伝わってきました。それから、自分で読むようになり、「シートン動物記」は、全話楽しく読むことができたと思います。

本が好きになるきっかけは、人それぞれ違うと思いますが、はじめは人から与えられたり、読んでもらったりしなければ本に触れることは少ないと思います。ぜひ、この機会にご家族で本に触れる機会を多くもっていただきたいと思います。